

みしま

公民館報

平成24年
3月

No.104



一年の行事を振り返って



パソコン教室 6月・11月

今年も延べ21名の方がパソコン教室を受講され基礎から学ばれました。中には、ブログを始められた方もおられます。



三島自治会歓送迎会 4/2

春は出会いと別れの季節、12名の方々の歓送迎会を執り行ないました。
また、自治会に功績のあったお二人の表彰も行なわれました。



一般レクバレー大会 6/19

全勝優勝で見事12連覇を飾った、川上部落チームの皆さん
おめでとうございます。



交通茶屋 5月・9月

春と秋の交通安全運動期間中に、小松保育所園児の協力を得、善光寺下において、マスクットを配布し安全運転を呼びかけました。



体協会長杯レクバレー大会 11/27

日吉地区の農林業者トレーニングセンターに会場を移し、優勝目指して戦った結果、若さとチームワークの良さで2連覇を飾った、アラジンチームの皆さん



三島地区自主防災対策連絡会 5/15

鬼北消防署から居村係長に来ていただき、心肺蘇生法及びAEDの使用方法、緊急時の対応の仕方等について講習を受けました。



牛鬼面作り教室 9~11月

家に一体ほしいなあ・・・ということで面作りに挑戦、講師の指導の下、型取り・和紙貼り・色塗りなど、10回あまりの教室でやっと完成です。農民祭にも展示しました。



ふれあい夜市 7/16

今回で2回目、商工会のバナナの叩き売り売り手の口上も冴えて、あっという間にバナナが売り切れました。売上金 32,769 円は、保健福祉課を通じて、東日本大震災義援金として寄付させていただきました。



三島婦人会 1日研修 10/2

愛媛県立美術館では「古代七つの文明展」を鑑賞、坊ちゃん劇場では、「誓いのコイン」愛と感動のミュージカルに感激！ 有意義な一日となりました。



戸祇山登山 11/6

頂上付近では生憎の雨になりましたが、全員無事登頂、下山時には温かいきじ汁をいただきました。



音楽を楽しむ集い 2/18

日吉住民センター3階ホールにおいて、OYAJ♪けんざいバンド他2グループの演奏をはじめ、ダンスサークルの皆さんによるワルツ・パソドブレ・ルンバの披露がありました。

最後には、ステージと会場が一体となり大変盛り上がりました。

三島地区四大行事

5/22

三島大運動会



日ごろ鍛えた腕で、ホールインワンは出たのでしょうか



紅白の力比べ、どちらが勝ったでしょう

町補助金 127,000 円
自治会一般会計 91,964 円
で運営いたしました。



桃組さんは初めての運動会、お父さんお母さんと一緒にかけてこです。



三島F-1レース、ゴール前のポックリは、きつかったみたいです。

7/7

三島地区敬老行事



おじいちゃん、おばあちゃんに日ごろの感謝の言葉を綴った作文の朗読をする1年生と6年生の児童代表者



お色気たっぷりにオリジナルの踊りを披露、手作りの衣装もきまっています。

町委託料 738,400 円
自治会一般会計 91,964 円
で運営いたしました。



対象者566名中、263名が出席しての式典。米寿17名中、10名の出席があり記念品が授与されました。



元気いっぱい踊る青組園児



初登場、二葉組

8/15

夏祭り



今年も各部落から大勢の踊り子さんが参加。色とりどりの浴衣で踊っていただきました。



日吉コールナチュレルの皆さんの「ふるさと」の合唱に合わせ「ふるさとみしま」の文字に点火。

町補助金	93,000 円
自治会一般会計	367,046 円
諸収入	7,006 円
打上花火	500,000 円
(各戸寄付金)	
で運営いたしました。	



今年の仕掛け花火は、川の上を渡して約80mの大迫力、本当のナイアガラの滝のようで圧巻でした。

11/20

農民祭・総合文化祭



公民館2階特設会場で開催した総合文化祭。出場していただいた団体の皆さんに、日ごろの練習の成果を披露していただきました。



自治会一般会計	109,591 円
JA 助成金	100,000 円
南予森林組合	15,000 円
諸収入	20,001 円
で運営いたしました。	



生花・写真・ちぎり絵・手芸品・俳句など多数の展示品をひとつひとつ熱心に見入る来場者。



丹精こめて育てられた野菜がずらりと並び、品定めをする来場者。



婦人会バザーに開店早々お客さんが入店、うどん・おすしに舌鼓、昼時には満席になりました。

ふるさと歴史探訪

石仏ロマン

いしきり

『石彫物語』

小松・岡本知幸さんから投稿いただきました。

ふるさと三島の神社や寺跡、或いは遠い昔の山城の址にたたずむと、その昔、この地に生きてきた人々の熱い思いが、再び脈々として胸の中に蘇ってくるようである。

そんな昔の「語り部」の一人を訪ね、川上「若一神社」の唐獅子・石灯籠などのふるさとの石彫の貴重な話を祖父の「石彦」さんから、伝え聞いた話として聞かせてもらったので、感謝しつつ綴ってみた。



昔の若一神社

○ 唐獅子（狛犬）の名工音さんのこと

延川と川上が接するところに万城という山があり、そこに産する石は軟質にて刻みやすく、一方風化しにくいという、青みがかった色目の美しい、まさに名石であった。

そこに、江戸時代の末期から明治にかけて吉田「甚之進流」をくむ、門（オモチ）の音さん（石音）という狛犬彫の名工がいて、請帳の記録によると六十二対（百二十四体）に及んだという。

若一宮ほか当時の狛犬の多くは彼の手によるものであろう。

中でも、子獅子を踏まえた「勇み獅子」は珍しく、まさに傑作といえよう。

ある時、全国行脚の名工を名乗る「目玉の佐助」という者が回り来て、音さんとの競作に及び、表情豊かな方の右（阿（あ）雄）を石音にゆずり、左（吽（うん）・雌）を佐助が選び、並んで刻んだという。

途中、佐助は何回も音さんの手を借り石を回すに、音さんは一度きりの据え彫りで刻んでしまい、流石に佐助は絶賛したという。その作、いずれも立派で甲乙つけがたき中、人々は佐助の作をさすがと讃えたという。若一宮の鳥居のそばの大獅子にその心意気とロマンを感じる事ができる。

狛犬の雌雄、人々に見分けがたしとして、雄のシンボル付きを頼んだところ、石匠はその作見ずとして断つたが、受け取らないという事で川上特注のシンボル付きの狛犬が完成、これまさに珍なりという。



若一宮参道上り口に鎮座する競作の狛犬

左：佐助作

右：石音作

○若一宮の石灯籠のこと

石灯籠は火袋ともいい神社の石段のほか、かつて往還の要所に人々の寄進によつて建立された街路灯のようなものである。

神社には普通「対」とされているが、なぜか若一宮の門前には右側の分だけが存在していた。ある時、左側に同じものを造ることになり、宇和島の石工荻原に依頼し、石は右と同じに万城石を使うこととさせた。

慣れない石のこと、思うように割れない軟らかさに随分と苦勞されたというが、少し丸味を帯びた姿は右と同じとはいかず好みが別れるところとなり、匠の苦勞が忍ばれる。



荻原作の石灯籠

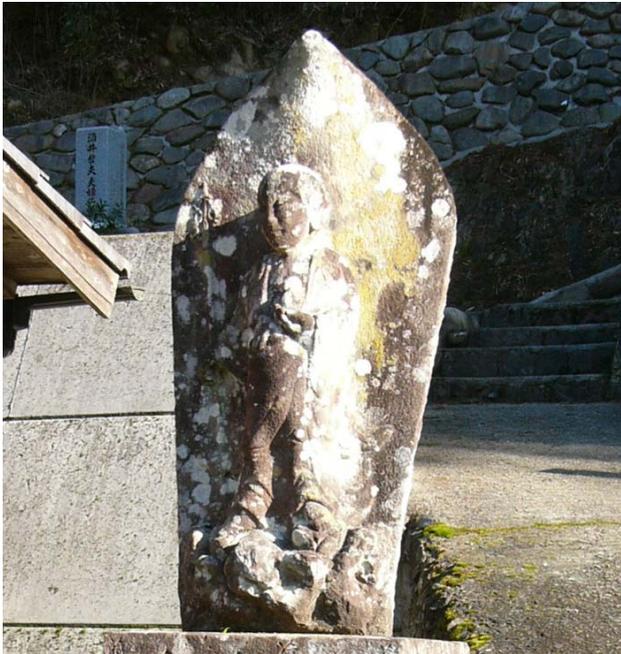


元からあった石灯籠

○姿物の名工嘉助のこと

石地藏などの石仏を姿物といい、下大野に嘉助という姿物を得意とする名工がいて、地藏やお大師の姿などを随分彫ったという。

明治十九年七月のこと、三島神社前の上流にヤナを架け、嵐の中を大漁に夢中になっていて、中洲に取り残された若者は松ノ木にしがみつき、その中の、六名の貴い命が散ったという悲しい忘れ得ぬ久保の出来事は今に語り伝えられ、久保の集会所横の地藏菩薩像となり、嵐に顔をそむけ脚をしっかりとふんばる姿として、石匠嘉助の手向けたむの心に感銘を受ける。



○山伏？奇石仏のこと

かつて下大野に横撫よこなでという小集落があり、鎌倉時代の正安二年（七百二十二年前）紀州熊野より山伏初代、二宮主膳なる者来たりて南光院と名乗り、同年延川白玉宮を勧請するといわれている

以来、明治時代、二宮觀善が西組大師公園の上手に下るまで、当時の山伏はこの地域の文化や経済の振興に多大の貢献をしてきたと思われる。

その山伏の斎神、不動明王石像の傑作であろうか、嘉助の手を感じるに足りる奇抜な石仏が下大野奥組に降ろされている。



○あ と が き

早春の木漏れ日の中に、ひっそりとたたずむ石仏は、野にあつて苔むしてこそ歴史と生命力を感じ味わう楽しみがそこにある。

ふるさとのよるこびも悲しみも石に託してきた人々の、あつい時代の心意をいささかなりとも伝える機会を得たこと、ここに改めて感謝申し上げます。

祝 広見川夢の会 三浦保環境賞大賞受賞

広見川の環境保全に尽力

平成二十四年二月三日、松山市内のホテルにおいて三浦保環境賞の表彰式があり、広見川の環境保全に取り組んできた成果や、現在行っている活動の継続性（ネイチャーダム造り）・獨創性（四万十・源流広見川上り駅伝大会）などが評価され、広見川夢の会（清家茂会長）が大賞を受賞されました。

受賞関係

平成14年2月5日	広見町社会福協議会	ボランティア活動
平成14年3月23日	コミュニティー推進協議会	住民活動推進優良団体
平成15年11月6日	伊予銀行	地域文化活動
平成16年5月7日	愛媛経済同友会	美しいまちづくり賞
平成17年5月25日	日本河川協会	河川功労者表彰
平成18年2月16日	愛媛環境賞	自然環境の修復・保全
平成19年11月19日	環境大臣賞	水環境保全・自然環境保全功労者
平成24年2月3日	三浦保環境賞大賞	
平成24年3月23日	テレビ愛媛賞	自然環境保全



夢の館（久保）に飾られている初代会長（故 酒井哲夫氏）との思い出の写真集



表彰式で受賞された大賞の盾



虫めずる姫君：1968



単行本表紙：1958

このほか以下頂いています

- 絵 100点余り
- 掛け軸 3点
- 額装 1点
- 挿絵が掲載された教科書、雑誌等 10点
- 単行本の表紙、帯等

公民館で随時展示予定

埼玉県在住の小越千鶴さん（千鶴さんの長女）から公民館へ寄贈していただきましたので紹介いたします。

小越千鶴さん 略歴

- 1908（明治42年）
小松に父：小越清治 母：モトの次女として誕生
- 1938（昭和13年）
単身上京、独学で日本画を勉強
- 1940（昭和15年）
月刊誌、小説の挿絵など依頼され挿絵画家として活路が見え始める
- 1945（昭和20年）
4月、東京大空襲によりやむを得ず帰郷
- 1946（昭和21年）
終戦の混乱の中、再び上京
- 1947（昭和22年）
ファッション誌のデザイナー兼スタイル画家として活躍
- 1951（昭和26年）
ふたたび挿絵画家となり生涯を捧げる
- 1998（平成10年）
3月25日 永眠



教科書・辞典



砂丘：1983



いのこつき：1955

小越千鶴画集原画作品集紹介



戸祇の子キャンプ5・6年生（安森にて）



担任の横田先生と一緒に（6年生）

畦地美玖(小松)



私は、クローケーヤ、キャンプなどやたことのないことがたくさんできました。とても楽しかったです。ありがとうございました。

6年生が4年間学び、遊んだ戸祇の子学級を終了するにあたり6名の児童と大野校長先生、横田先生からのメッセージを紹介します。



馬場 健太(川上)

ぼくは、戸祇の子学級及のクローケーヤが一番の思い出です。上手にできたときはとてもうれしかったです。またやりたいです。ありがとうございました。

岡本昌也(広見)



ぼくは戸祇の子学級で、クローケーヤやフーフが本当に楽しかったです。ありがとうございました。



樽 光星(広見)

しめ縄作りや竹とんぼ作りなども楽しかったです。ぼくは、この戸祇の子学級のおかげで色々な事ができました。ありがとうございました。

艾美咲(広見)



私は、戸祇の子学級で一番楽しかったのはクローケーです。何度も優月券できたことが心に残っています。



仁志 拓未(川上)

僕は、戸祇の子学級で竹とんぼ作りやクローケー、戸祇の子キャンプなどやた事、無い事が色々できて本当に楽しかったです。色々な事をさせていただきありがとうございました。

戸祇の子学級

大野直陳(校長)



体験を通して得たことは、将来への得がたい財産になるはず。学校では学ぶことのできないとても大切な礎を築く機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。



横田光彦(6年学担)

今年も色々な事に挑戦させていただきました。子供たちより喜んでいただけました。私かもしれません。貴重な体験を本当にありがとうございました。



リレー
エッセイ

我が愛しの三島

No.41

三島に暮らす人々に、日頃の取り組みや「ふるさと・三島」に対する思いを語って頂くこのコーナー。今月は、松本拓郎さん（下大野）に執筆して頂きました。

鬼北川上り軍団 「かあんまあくん」



軍団代表
松本拓郎さん

皆さんこんにちは、「我が愛しの三島」は、実は二回目になるので今回は、鬼北川上り軍団「かあんまあくん」について話をします。

私たち「かあんまあくん」は、毎年八月にこの三島地区で行われる四万十・源流広見川上り駅伝大会に出場するために地元若者が集まって出来たチームです。

当初は、大会に出場し旨い酒を飲んで楽しむのが目的でしたが、今では地元ของทีมとして優勝をし、少しでも大会を盛り上げていこうという心が芽生え、今年の一月には鬼北町駅伝大会に出場し、一般の部で初出場、初優勝することが出来ました。

川上りでは準優勝しかない、今年の目標の「川上り優勝」に向けて大きな弾みをつけることが出来ました。

そして、川上り大会の主催者でもある夢の会より、私たちのチームも「是非とも夢の会に加入してもらいたい」と話を頂き、それこそ少しでも地元力になれる事があるのならと、夢の会へ入会することと致しました。

私たちに出来ることは小さいかもしれませんが、地元活性化に向けて少しでも役に立てればと頑張っていますので川上りをはじめ応援をよろしくお願い致します。



四万十・源流広見川上り駅伝大会で
準優勝のかあんまあ〜ん (8月21日)

川上り軍団 メンバー紹介

松本拓郎・兵頭和一
竹本敬三・酒井庸裕
西川慎一・五島 暁
堀江健司・井上直人

香典返しのお礼

次の方から三島公民館、三島自治会に金一封をいただきました。

心より厚くお礼申し上げます。

- 一月二十六日 野村 孝仁さん (小松)
- 一月三十一日 山口 清志さん (延川)
- 一月三十一日 高好 通晴さん (広見)
- 一月三十一日 和田恵美子さん (延川)
- 二月 十三日 大川 実さん (広見)
- 二月二十二日 五島 敬さん (下大野)
- 三月 五日 池田 清文さん (広見)



3月号 表紙写真紹介

鉞の滝は下大野川の名勝地鳴王瀬の滝のやや下流にある。知名度は今一つだがなかなかの名瀑。過日、井伊敏正氏（下大野）に案内され思わずパチリ。

編集後記

一年は早いもので、あつという間にもう年度末となりました。

この一年、なんとか公民館便りを発刊することができたのは、突然リレーエッセイをお願いし、快く執筆していただいた皆さん、また、記事を提供していただいた皆さんのご協力あつてのことだと心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、よろしくお願いいたします。

